

チェルノブイリ通信

2012年3月20日

No.87

■発行 NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク
〒811-3102 福岡県古賀市駅東2-6-26パステル館203号
TEL/FAX 092-944-3841 Email jim@cher9.to
ホームページ <http://www.cher9.to/>
■募金口座 郵便振替口座 01770-1-65328
楽天銀行 ジャズ支店(支店番号201)(普)7017104



チェルノブイリ医療支援ネットワークは、チェルノブイリ原発事故で被災した人々のために、
現地から求められる医療支援を行います。
この活動を通して、日本とベラルーシの人々の心と心のつながりを深めます。



2007年に日本医科大学で甲状腺の内視鏡手術を受けたアリオシャさん
昨年秋の一年ぶりの再会でも、元気な姿をみせてくれた

特集：ブレスト第11回検診帰国報告(2)

若者たちの見た、ベラルーシの医療と文化

今さら聞けないチェルノブイリQ&A

ベラルーシ紹介 歴史編(4)

2012年度通常総会報告

事務局からのお知らせ

募金者のお名前とメッセージ

事務局日誌より主な活動報告

● 特集 ● プレスト第11回検診帰国報告(2)

若者たちの見た、ベラルーシの医療と文化



昨年秋の「プレスト第11回検診」には、日本医科大学付属病院の竹間由佳先生、日本医科大学5年生の亀井信孝さん、木佐森舞夕さん、眞田麻梨恵さん、庄田有里さんがボランティアで参加されました。今号では、現地滞在中の皆さんへのインタビューをご紹介します。

—まず、このツアーへの参加動機をお聞かせください。

庄田 福島での原発事故があつてチェルノブイリの状況に近づいてきたなと思ひ、このタイミング、モチベーションの高い状態で行けば、たくさん吸収できるし、医者になつてからもこの経験を生かして、皆さんのお役に立てるのではないかと思つて参加しました。

眞田 もともと海外に行くのが好きで、日本とは違う環境を見たという気持ちがありました。3・11以後日本もチェルノブイリと同じような現状になつて、ベラルーシはもしかしたら、20年後の日本かもしれないし、そうでないかもしれない。それを見てみたいと思ひました。それから、日本ほど経済的に発展していない国だから、普段見

ることができない医療や生活を、これをきっかけに知りたいと思ひました。

木佐森 最初に行きたいと思つたのは、清水先生の講義で写真などを見た時です。医師になりたいと思つたきっかけも、国境なき医師団のことを知つてすごいなと思つたため、海外の医療に興味がありました。その後、3・11の事故があつて、チェルノブイリの事故後のこちらでの対処方法や現状を知りたいと思ひました。また清水先生の、こちらで内視鏡オペを広めていきたいというお気持ちに素晴らしいので、私もそういうことをしていきたいと思つて参加しました。

亀井 もともと海外の医療に興味があつて、前回参加した竹田さんから、ここでは日本では味わえない



2007年2月に日本医科大学で甲状腺の内視鏡手術を受けたアリオシャさんと再会。傷あとはすっかり消えています。



首都ミンスクの街並み
マクドナルドのネオンも輝く



現地の医学生と記念撮影



プレストでの甲状腺がん検診
触診をする眞田さん



清水先生の内視鏡手術には、
グロドノ州の医師も見学してきた。

ものを味わえると聞いていました。そこで「百聞は一見に如かず」ということで、自分の目でも見てみたくまりました。

竹間 甲状腺を専門にし、一生甲状腺をやつていく身として、福島のこともあったのでチエルノブイリでの事故後の対応、検診の仕方などを知らなかったのと、日本でのアリオシャさんのオベも一緒にしているの、彼女の傷跡を見てみたいという思いがありました。5年前に内分泌外科に決めた時に来ようと思ったのですが、なかなか来られず、今回やっと来ることができました。

―参加を決める前にベラルーシについて知っていましたか？

庄田 国の名前だつて知りませんでした。

木佐森 私も！

眞田 私もロシアの中の州かな、ぐらいに思っていました。

亀井 チエルノブイリの関係なのにどうしてベラルーシなんだろう、ウクライナじゃなかったっけ、と思っていました。チエルノブイリ事故については知っていましたが、被害が及んでいる所がどこかまでは知らなかったんです。

―来る直前にはベラルーシについて

少しは調べたと思うのですが、その印象と比べると実際に来てどうでした？

木佐森 もっと田舎で、発展してないと思っていました。意外と発展していて驚きました。

庄田 本を読んで、放射線汚染地域がたくさん散在しているのがわかったので、食べ物で内部被曝するかもしれないと思って心配でした。でも日本大使館で、食べ物の放射線のチェックはしているし、放射線以外でも食べ物の安全性のチェックは厳しいと聞いて安心しました。

竹間 5年前から来たかったので、情報は色々知っていました。独裁国家だと思っていたのですが意外と

自由ですね。

亀井 ルカシエンコ大統領が国民に支持されているというのが意外でしたね。

―インタビュアした年配の患者さんも、大統領のおかげで医療費はタダだし、食べ物にも困らないし、幸せだと言っていました。

竹間 通訳のバレリーさんは自由がないと言っていました。若い人はそう感じるのかもしれませんがね。

亀井 それから僕は、ここは社会主義の国だから資本系の企業はないのかと思いましたが、マクドナルドがあつたんでびっくりしました。

竹間 感動したのはプレストの病院で清水先生の手術を自分たちで見よう見まねで実践していたということでした。向上心がすごいな、と思いました。

—そうですね。ちょうど病院の話題が出ましたので、ではこちらの病院の印象を聞かせてください。

亀井 ミンスク10番病院は思っていた通り汚いなと思いました。プレストの病院は日本と変わらないと感じました。清水先生の釣り上げ器具を見よう見まねで作って18例も手術をしたのはすごいと思います。

庄田 ミンスクとプレストの違いはモチベーションの違いのような気がします。プレストでは不潔・清潔という点もきっちり分けられていて、そういうことはお金が無くても意識の持ち方次第でできる

ことだと思いました。

木佐森 プレストのバロージャさんの話では、お金はないけれども安いものでも何とかやりくりして工夫しているということでした。日本でも真似できるのではないかと感じました。

眞田 日本でもあれぐらいの所はあるし、ミンスク10番病院を見ても意外と普通だと感じました。経済的に豊かではないから使い捨ての物をたくさん使うことはできないし、機械も古くなつたからと言つてすぐ捨てられない。手術方法についても、オープンでやるより内視鏡の方が時間がかかるので、効率的な治療法と言う面で言えばオープンでやった方が早いし確実に治せる。内視鏡でやると患者さんの術後のクオリティ・オブ・ライフが高まるけれど、その余裕がはたしてこの地域にあるのか、ということも思いました。

竹間 細胞診の技術が日本から教えたことがしっかり根付いて、す

ごい技術になっています。日本でもあれほどの技術の人はいないぐらいです。こちらの人を成長させて、最後はこちらの人だけでできるようになる、というのが一番の支援だと思つたので、プレストではそれが実現していて素晴らしいと思つきました。

—本当にそうですね。それでは、皆さんはプレストで検診にも参加されましたが、その印象はいかがでしたか？

木佐森 あんなに甲状腺に異常がある人を見たことがないので、検診でこんなに触れるんだとか、エコーでわかるんだとか、感じました。

庄田 スクリーニング検査で異常がある人が集められていたので集中的に学べて良かったです。

—日本ではあんなにたくさん患者さんに会う機会はないですか？

2009年にプレスト州立病院で、初めての甲状腺の内視鏡手術が清水先生によって行われました。プレストの医師はその後、見よう見まねで独自に手術の装置を作り、19年の9月までに18回の手術を実施したそうです。



昨年の甲状腺内視鏡手術については、次号にて清水先生よりご報告をしていただく予定です。どうぞお楽しみに。



竹間 私は甲状腺専門病院にいたので、そこには甲状腺疾患の患者さんだけで一日1500人も来られるんです。

年間のべ27万人です。ですから私には接する機会はたくさんあります。専門の病院が少ないので一極集中してしまっているんです。もともとアジアの女性には甲状腺疾患が多いんです。でも、治療しなくてはならない人はそれほどではなくて、検査して、それじゃあ半年後に、というふうを経過観察をしていくことが多いです。プレストでも同じでした。

庄田 日本から検診に参加した時の方ががんと診断される割合が多いと聞きました。病理の質を上げていくことが必要かもしれませんね。

竹間 そうですね。日本でも言えることですが、病理の技術を上げることが正しい診断に繋がりますね。

庄田 病理の先生とか、内科の先生もこちらに来て指導したらいいのではないのでしょうか。

竹間 甲状腺を専門にしている病理の先生は日本にもあまりいないので、ここにきて学べるというですね。

—ありがとうございます。それでは今後の支援について、最も必要なのは何だと思えますか？

庄田 釣り上げ器具を作ったように、こちらの人が自分たちでできるような知識や技術を教えること。

木佐森 もつと病理の技術を教えるためのことを充実させたいんじゃないでしょうか。

竹間 それには時間が必要です。1週間ではできないのではないので、こちらの先生が日本に来て、私たちの手術に加わって技術を学んで帰ってもらいたいかもしれません。

—日本医大にはそういう医師の受け入れをする研修制度がありますか？

竹間 あります。研修期間は1年が多いです。半年の人もいます。でもベラルーシの病院の都合もありますしね。長期間その医師が不在になるわけですから。

—それがクリアできれば良い研修になる可能性がありますね。福島事故が起って、CMNとしては、資金面でも支援のあり方についても変化の時期だと思っておりますが、それについてはどうですか？

眞田 こちらの活動が福島に役立つことが示せばいいと思います。

竹間 福島への支援とリンクして行っていければいいと思います。こちらはヨード欠乏地域で、日本はヨードが豊かな地域ですから実際に今後どうなるかはわかりませんが、放射性ヨードが甲状腺に取

り込まれていることは事実で、そのデータもあるので、こちらのチェルノブイリのデータと比べるとかスクリーニングの方法なども、とても役に立つものだと思います。スクリーニングについては日本では学校単位で行うなどがよいのではと思います。

—他に支援についてご意見は？

亀井 支援すると言っても需要がなくて意味がないので、こちらが提供できる範囲を示して、その中で必要なものを言ってもらおう。

竹間 自分たちでできることはやってもらおう。もう充分だと思える支援はやめて、できない部分を支援していけばいいと思います。

—皆さん、貴重なご意見をありがとうございました。

ゴシケービッチ

奥州に行く②

大島 幹雄

安政七年(一八六〇年)二月五日江戸を出立したゴシケービッチ一行は、奥州街道を北上、函館を目指した。外国人としては初めて奥州街道を旅するゴシケービッチたちに対する幕府の気配りは並大抵のものではなかった。外国人殺傷事件が相次いでいたこともあり、警備に目を光らせながら、不自由させてもいけないということで、江戸から三〇人ちかくの役人も同行させている。この中には専用のコックもふたり含まれて

いた。

このふたりが中心となって、旅先の献立を留意した。黒パンとキャベツのスープに、塩漬けの魚などを食すロシア人たちに、いかにして日本の食事を食べてもらうか、このコックたちは函館に着くまでの二カ月間心休まることがなかったのではないだろうか。

青森県三戸町には、ゴシケービッチたちが宿泊した時の様子を書き留めた代官所の役人の見聞記が残されているが、そこはかなり詳しく食事のことが記されている。

三戸町でゴシケービッチたちのために用意された料理は次のようなものである。

麦饅頭をゴマ油で揚げ、片栗粉と砂糖で練ったものが一品、それと雉きの切り身と、ねぎ、凍豆腐、椎茸、長芋を油で揚げたものを麦粉と玉子をまぶした上、砂糖と塩を入れて煮たものの二品である。この他に梨、盛岡の箱菓子、麦センベイが出された。最初のものは主食のパンの代わりに用意したものであろう。二品目は雉鍋のよう

なものだったのだろうか。ゴシケービッチたちはこれに持参してきた牛の油のようなものを瓶から出してかけたうえに、さらに氷砂糖をたくさん振りかけたという。いったいどんな味がしたのであるか。あまりおいしそうには思えないのだが、それにしても、ロシア人は紅茶などには砂糖をたつぷりいれることは知られているが、ここでの料理は、砂糖のつかい過ぎではないだろうか。

この旅に同行したアルブレヒト夫人は手紙のなかで、旅先で出された料理についての感想を残している。

「江戸から連れてこられた日本人コックは各宿場で、常に私たちの口に合うように、日本風の昼食や夕食を調理してくれました。私たちはお茶でさえ砂糖を入れて飲むので、余程甘いものが好きだと思って、コックは何でも、つまりスープにも焼き物にも砂糖を使いました。」

やはり彼らは砂糖攻めには閉口していたのだ。アルブレヒト夫人は同じ手紙の中で行った先々でどんな料理が出されたかを書き止めている。

「菓子入りの壺、小さいけれど美味しいみかん、じゃが芋によく似た水分の多い梨などが各宿場では何よ

りも先にだされました。時々魚のスープや細切れのうさぎの肉片の入ったスープが出たり、そうめんと細かく刻んで焼いた猪の肉、干しイカかポタンエビなどの入った雑炊のようなものが出されました。もつと軽い食事は澱粉でんぷんや砂糖の他に、さらに半熟卵が入ったキセーリ、そのあとに外見上はふわふわしたピローグに似た生卵を泡立てたものでした。」

二人のコックはアルブレヒト夫人に、みなさんの健康のために薬にする料理を作るのに苦心していると語っていたというが、これに対して夫人は「料理の味は薬のよう」で、「どれもあまり美味しくはありませんでした。」と書いている。幸いにもゴシケービッチたちは自分たちの食料を持っていたので、「苦くて甘い日本の料理を食べずにすんだ」とあるが、最後の二週間は持参したパンが切れず、米を食べなくてはならない事態になり、この時ばかりは仕方なく、紅茶でご飯をのみこんだという。ゴシケービッチ一行は、このように幕府側が細心の注意を払って、手配した日本料理にはかなり辟易していたことがわかる。

(※次頁下段に続く)

最終回

ベラルーシ 紹介 歴史編 ゴシケービッチ ノート

④

第50回日本臨床細胞学会秋期大会様より、 100万円のご寄付をいただきました!



顕微鏡で細胞を調べる渡會臨床検査技師

昨年12月、第50回日本臨床細胞学会秋期大会(会長:土屋眞一様、会計局長:渡會泰彦様)より、移動検診車「雪だるま3号」カンパとして、100万円のご寄付をいただきました。スタッフ一同、心よりお礼申し上げます。

現在ベラルーシで活躍中の「雪だるま2号」老朽化に伴う代替車購入資金として、大切に使用させていただきます。

平成23年度福岡市市民国際貢献賞 を受賞しました!



2012年2月14日の受賞式にて、
高島福岡市長より、賞状と記念品を贈呈

この度、チェルノブイリ医療支援ネットワークは、「福岡市市民国際貢献賞」を受賞いたしました。

今後も日本の市民、専門家らと共に、医療を中心とした支援活動を通して、引き続きチェルノブイリ被災者支援に取り組んでまいりますので、これからも変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

受賞式当日の様子は各報道機関で紹介されました。

また今回の受賞に関連し、西鉄高速バス車内情報誌「ep」(3月1日発行号)に当会の紹介記事を掲載していただきました。

しかし口にはあわないものの、二人の専用コックまでつけてくれ、健康に留意しながら、日々の食事を用意する幕府の気配りには、感謝の念をもっていたにちがいない。こうした配慮を知っていたからこそ、たとえ口に合わなくても不味いとは言わなかったのだろう。砂糖攻めにあつて辟易しながら、嫌だといえないところにゴシケービッチたちの遠慮と幕府への気配りがあつたように思える。食事をめぐつてのこうしたやりとりの中に、互いに相手の立場を慮おもんばかっていた日本とロシアの交流の、牧歌的な二頁を見ることができるとは、ないだろうか。

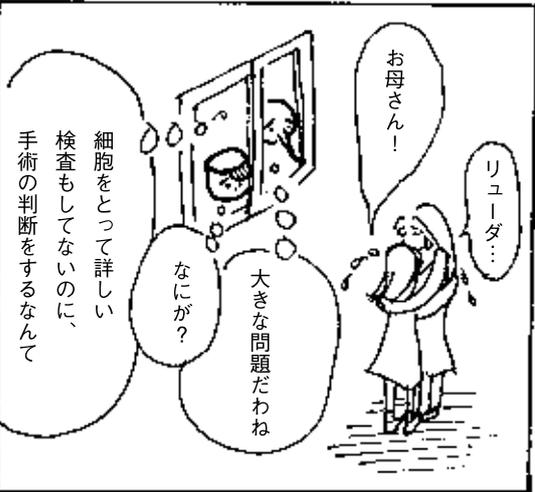
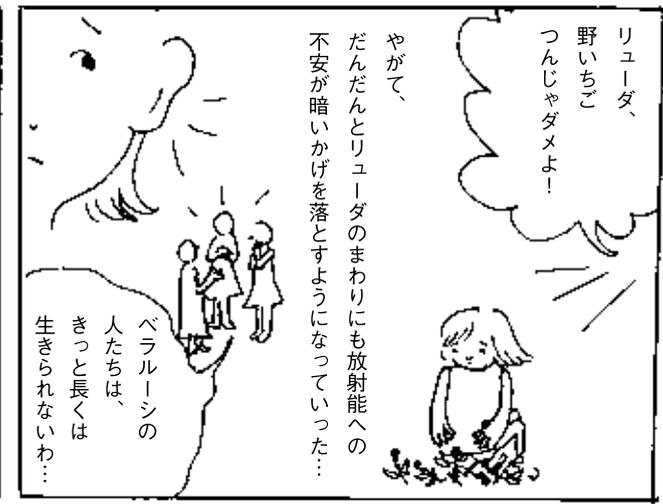
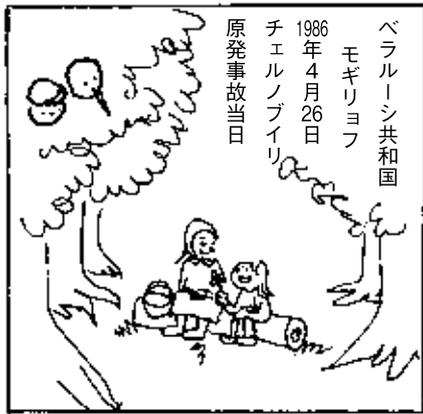
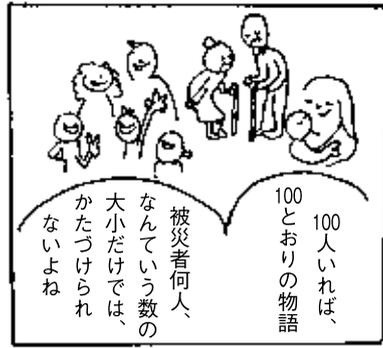
(本連載は「日本ベラルーシ友好交流協会」機関誌より転載したものです。転載を快諾してくださった同会と執筆者の大島さんにこの場を借りてお礼申し上げます。)

大島幹雄／ドキュメンタリー作家
昭和二八年宮城県石巻市生まれ
早稲田大学露文科卒業

いまさら人にはきけない?! (イヤイヤや 意外しらない)

チェルノブイリ

ひとりひつり物語
80年代 リュドミラ・ウクラインカ 著



総会 報告

2月18日(土)、福岡市人権啓発センター研修室にて、2012年度通常総会を開催し、昨年度の事業、収支決算報告及び、今年度の事業計画、収支予算についての協議・承認が行われました。総会報告資料は団体ウェブサイトでも公開しているほか、ご希望の方へはお送りしていますので、事務局までご連絡下さい。

【海外事業】

● プレスト第11回検診団

第32次調査団の派遣



プレスト市での甲状腺がん検診、支援金・支援助物資の贈呈、清水二雄医師による内視鏡手術、医学シンポジウムの開催、関係者への取材等を実施。
(詳細は「チェルノブイリ通信」86号に記載)

● 福祉工房「のぞみ21」支援
● NGO「コンフィデンス」支援



◆ のぞみ21
商品の仕入、販売、スタッフへの取材を実施、工房運営資金\$2417を贈呈。
◆ コンフィデンス
関係者への取材を実施、活動運営資金\$900を贈呈。

【国内事業】

- 報告会、イベント等の開催
- 講師派遣、写真パネル貸出、イベント参加
- 情報発信(会報発行、ウェブサイト管理、他)
- 物販(支援コピー、書籍)、など



グリーンコープ学習会



ハートフルフェスタ福岡

今年も会員の皆様、多くの方のご協力で、無事にベラルーシへの派遣事業を終えることができました。国内では様々な活動を通して団体のPRをしました。詳しくはウェブサイトをご覧ください!

→ http://www.cher9.to/kako_katudo.html



理事・川原

2012年度事業計画

【海外事業】

- プレスト第12回検診団第33次調査団の派遣
 - ・ 甲状腺がん検診、甲状腺内視鏡手術の実施
 - ・ 支援金、支援助物資の贈呈
 - ・ アトラス作成

● 福祉工房「のぞみ21」、NGO「コンフィデンス」支援

- ・ 運営カンパの呼びかけ、支援金の贈呈
- ・ 雑貨の仕入および国内での紹介販売
- ・ 関係者への取材、会報等での活動紹介

【国内事業】

- 報告会等の開催、講師派遣、国際協力イベント等への参加
- 情報発信(年4回の会報発行、ウェブサイト管理、他)
- 物販(支援コピー、書籍)、など

チェルノブイリからまもなく26年。被災地では今でも支援を必要とする人がたくさんいます。被災者と障がい者の働く福祉工房「のぞみ21」への支援も引き続きよろしくお願いします! お買い物で気軽にチェルノブイリ支援を♪



理事・寺嶋

昨年は福島での原発事故があり、日本、世界中が大きな衝撃を受けました。CMNでも、今回の東日本大震災に対する支援活動を検討中です。情報発信の面でも、これまでに培ったチェルノブイリ支援のノウハウを生かし、有意義な情報を提供していきたいです。



理事・小山

2012年度運営体制

理事長 河上雅夫
副理事長 寺嶋悠
理事 小山浩一、吉本美貴
和田幸策、川原秀之
小川峰湖
監事 津島朋憲
事務局 川原秀之、三島さとこ

新体制で新しい年度をスタートしました。
今年も一年、会員の皆様らとともに、現地から必要とされる支援活動をしていきたいと思ひます。
引き続き、ご支援のほど、よろしくお願ひします。



理事・河上

国内では昨年に続き、チェルノブイリの状況やベラルーシの文化を伝える企画を考え中です。
会員の皆様と顔の見える信頼関係を築いていきたいと思ひています。
イベント企画は福岡が中心ですが、ぜひお気軽にご参加くださいね!



理事・和田



理事・吉本

今年度より新たに理事に就任いたしました。
会の活動に関わるきっかけなどを「チェルノブイリ通信」85号の会員さん紹介コーナーで述べていますので、どうぞご覧ください。
今後ともどうぞよろしくお願ひします!



理事・小川

2011年度収支決算書(2011年1月1日~2011年12月31日) 及び 2012年度収支予算書(2012年1月1日~2012年12月31日)

科目	11年度決算	12年度予算
経常収入の部		
会費収入	129,000	135,000
事業収入		
のぞみ21支援	297,090	500,000
報告会・講演会等開催	7,000	15,000
講師派遣・パネル展	20,000	20,000
書籍販売	438,760	50,000
イベント参加	0	40,000
コーヒー販売	1,009,991	1,000,000
寄付金収入		
活動支援金	7,282,073	7,200,000
のぞみ21カンパ	111,100	150,000
雪だるま3号カンパ	1,114,400	100,000
雑収入	24,517	1,000
経常収入合計	10,433,931	9211,000
経常支出の部		
事業費		
検診・調査・スタツア	2,163,135	2,000,000
のぞみ21支援	558,787	480,000
報告会・講演会等開催	18,417	14,000
講師派遣・パネル展	15,437	15,000
会報発行	1,433,282	1,300,000
イベント参加	34,201	175,000
書籍販売	51,565	5,000
コーヒー販売	732,158	700,000
インターネット	16,793	15,000
事業費計	5,023,775	4,704,000
管理費		
給料手当	2,693,250	2700,000
法定福利費	273,713	300,000
旅費交通費	130,355	110,000
通信運搬費	126,027	130,000
消耗什器備品費	0	30,000
消耗品費	49,976	50,000
水道光熱費	99,844	100,000
支払地代家賃	504,000	504,000
支払手数料	199,284	200,000
保険料	47,250	67,000
諸会費	56,000	56,000
法人税	81,000	81,000
その他(※)	46,513	33,000
雑費	2,100	10,000
雑損失	7,900	5,000
予備費		84,000
管理費計	4,317,212	4,460,000
経常支出合計	9,340,987	9,164,000
経常収支差額	1,092,944	47,000
当期収支差額	1,092,944	47,000
前期繰越収支差額	7,212,033	8,304,977
次期繰越収支差額	8,304,977	8,351,977

(単位:円)

(※)会議費、研修費、印刷製本費、租税公課、寄付金支出、為替差損益

※昨年度中にお寄せいただいた「東日本支援カンパ」は合計869,200円でした。
まだ具体的な活動に入っていないため、昨年度は預り金として処理しています。

たくさんのご支援を ありがとうございます。

(順不同 敬称略)

- 相川美智子 有竹容子 稲吉清子 井上裕子 岩井原育子 岩川親良 岩崎美智子 有働聡美 榎本みつ枝 大石恵理子 太田千賀子 大谷正穂 大淵尚平 小川伸枝 小川令美 小野直子 榊モノダスサンコー 川村りら 北野薄 グループ・イーハトーヴ 桑原千鶴子 桑村綾美 小島輝巴 後藤順 齋藤和歌子 坂本綾子 佐藤恵美子 佐藤久美 サトウ矯正歯科クリニック 渋谷けい子 志村美幸 下田豊文 庄籠道子 城内志津 白水明代 鈴木きぬ子 鈴木弘子 関根敏子 第50回日本臨床細胞学会秋期大会 田浦記子 高橋由紀子 田口美奈子 田中輝子 田中佳子 田中香代子 谷村禎一 牧子 チャリティーコンサート実行委員会「クリュティエ」 鶴田光子 徳光清孝 床田和隆 中川洋慶 中島俊子 中野久美子 長棟かおる 中村幸枝 中本治嘉子・博子 西嶋香穂子 日本キリスト教会折尾伝道所婦人会 野村幸子 橋爪紀生子 早川もと子 林田英明 原岡ひとみ 引田良子 久田文字 廣政貴子 深田俊江 深堀ミチ子 深水陽子 福永弘恵・千空 福岡由紀子 福本勅子 富士梵富美子 前田祐子 栴田千絵 松井由美子 松下卓治 丸田裕子 丸山さより 村上和代 めぐみ保育園 森美津子 森悠子 森戸春江 山口英明 山田美佐子 山田靖子 山本潤子 山本裕子 吉朝潤子 吉村淳子 和田由理・茉莉恵 渡邊幸之新

〔都道府県別〕

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 【北海道】1名 | 【東京都】6名 | 【神奈川県】1名 |
| 【千葉県】1名 | 【埼玉県】3名 | 【長野県】1名 |
| 【静岡県】1名 | 【愛知県】1名 | 【三重県】1名 |
| 【京都府】1名 | 【和歌山県】1名 | 【兵庫県】5名 |
| 【島根県】1名 | 【広島県】5名 | 【山口県】7名 |
| 【愛媛県】1名 | 【福岡県】30名 | 【佐賀県】5名 |
| 【長崎県】6名 | 【熊本県】11名 | 【大分県】2名 |
| 【鹿児島県】2名 | | |

合計

活動支援金 2,418,655円
 のぞみ21カンパ 987,155円
 雪だるま3号カンパ 65,000円
 東日本支援カンパ 1,023,500円
 343,000円

●マンスリーサポーターの皆さん
 相川靖 相羽美香子 石本祥二郎 磯道綾子 一瀬和美 稲田照子 井上礼子 岩口香織 上田英子 植田清子 内野千鶴子 延壽富美 大麻卓子 大久保伸子 大久保弘子 大崎知恵 太田昌子 大場満 片岡八重子 金山涼子 紙森優子 河上雅夫 川崎君子 崎清美 川尻愛子 木村雅子 古賀輝洋 後藤宇企子 財津悠子 斉藤美代子 坂口馨子 櫻井美喜子 佐竹早苗 佐藤一江 佐藤進一 佐藤照子 城景子 白浜千恵子 首藤展子 高山知佐子 竹田恵子 武田孝子 田中京子 珍部千鳥 土持秀男・由利子・朱加綱脇牧子 坪川裕子 富永隆史 友景忍 鳥井原桐子 鳥原良子 永江之子 永尾ゆかり 永野沙智子 中村洋子 榎崎悦子 西井えりな 西首延子 丹羽道代 納富育代 平原久子 廣松初美 深川哲臣 福井初子 福本勅子 藤本孝子 洲田三輝 古川恵子 松尾智恵子 松永庸子 丸山さより 水本敬子 三野桂子 村田聡子 村西美由紀 村松知子 室屋芳乃 森川キミエ 山下澄子 山中陽子 山本亮輔 吉田美抄子 吉野陽子 吉村啓 渡邊真志子 計109名(匿名含む)

(2011年11月1日〜2012年1月31日までに募金をして下さった方、ならびに「のぞみ21」雑誌、支援コーナー・紅茶の購入を通じて活動を支援して下さいました。通信にお名前を紹介することを許可いただいた方のみ掲載しています。)

編集後記

総会も無事に終わり、新しい年度がスタートしました。今年もスタッフ一同、知恵を絞って活動を頑張っていますので、応援をよろしく願っています。7ページで紹介した情報誌「ep」のほか、福岡のフリーペーパー「ワールドジョイントクラブ」72号でも団体の紹介記事掲載していただきました(み)

皆さまからのメッセージ(一部抜粋)

●少しでもお役に立ちます様に…。●マトリョーシカちゃんのカタログへの登場、かわいいですね。●心のもった品々、大切に使用させていただきます！●若い医学生が育つのはたのしいですね。●志のある若い医学生たちの言葉に希望を感じます。何とか原発を止めなければ、できる限りのことをしようと思えます。●原発事故の終息を祈りつつ、息の長い活動、尊い働きを感謝して。●チェルノブイリもJCO事故も経済盲信の日本人には無意味だったのでしょか…。●チェルノブイリをわが事として考えていきます。●御身体大切にお祈りしております。●皆様の活動を心より支援いたします。●長きにわたり活動されていることに頭が下がります。●教訓を活かせず福島事故が起きてしまったこと悔やまれますが双方の復興のためにも活動応援します。●福島の子供達に少しでも役に立てることを願いつつ、出来ることから活動しています。●原発のない世界の実現を。●コーヒーとっても美味しい。●歴史はくり返すのではない。くり返させたいのは人間である。フクシマを通して、こんどこそ「くり返させないことを誓う。●日本医科大学清水一雄先生を応援しています。●これからもマトリョーシカを買いますね。●微力ですがお手伝いできることに感謝しています。●一刻も早い復興を祈っています。●後始末の為の支援ではなく、原発を止める為の活動費であってほしい。●核のない世界へ向けて●穏やかな日々が戻って来ますように片隅から祈っています。●心やすらかな日々がすべての人に！●良い方向へ進んで行きますように。●少しずつですが何かお役立て頂ければ嬉しいです。応援しています。●子ども達の為に私達ができることを大人の責任において果たしていきたいと思えます。●原発事故で苦しんでおられる方々のお役に立てればと思っています。チェルノブイリの人々の為に頑張ってくださいありがとうございます。●少額ですが、細く長くの心意気です。